



# 七月(大) 文月 尾宿

七月七日小暑の節より  
月命辛未六白金星の月  
暗剣殺西北方

旧五月大  
六月小

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	月	つちのとみ	九星	社会を明るくする運動、全国安全週間、国民安全の日、富士山開き、銀行の日、不成就日、 <small>旧五月大</small>	廿九	先負	とる	張	ちう日	4.29	19.01	2.54	17.23
2日	火	かのかえ	九星	半夏生一二時三十分、博多祇園山笠(1日〜15日)	卅	佛滅	やぶる	翼	●	4.29	19.01	3.43	18.27
3日	水	かのと	八白	●朔四時一六分	朔	赤口	あやぶ	軫	月とく	4.29	19.01	3.43	18.27
4日	木	みづのえ	七赤	米国独立記念日、三隣亡	二	先勝	なる	角	大みやう	4.30	19.01	5.43	18.28
5日	金	みづのえ	六白	榮西禅師忌	三	友引	おさん	亢	母倉	4.30	19.01	6.52	18.28
6日	土	きのえ	五黄	東京入谷朝顔市(8日迄)	四	先負	ひらく	氏	大みやう	4.31	19.00	8.02	18.28
7日	日	きのと	四緑	小暑一八時三十分、七夕、成田不動尊祇園会、奈良吉野蛙とび	五	佛滅	ひらく	房	大みやう	4.31	19.00	9.13	18.28
8日	月	ひのえ	三碧	三隣亡、一粒万倍日、不成就日	六	大安	とづ	心	●	4.32	19.00	10.21	18.28
9日	火	ひのえ	二黒	●上弦一九時五五分、鴨外忌、東京浅草観音ほおずき市	七	赤口	たつ	尾	くま日	4.33	19.00	11.28	18.28
10日	水	つちのえ	一白	東京浅草観音四万六千日	八	先勝	のぞく	箕	神よし	4.33	19.00	12.34	18.28
11日	木	つちのと	九紫	一粒万倍日	九	友引	みつ	斗	百事上	4.34	18.59	1.01	18.28
12日	金	かのかえ	八白	福島伊須須美田植祭、大阪生国魂神社夏祭、佐原の大祭(14日迄)、草市、初伏	十	先負	たいら	牛	大みやう	4.34	18.59	2.07	18.28
13日	土	かのと	七赤	ぼん迎え火、東京靖国神社みたま祭	十一	佛滅	さだん	女	大みやう	4.35	18.58	3.14	18.28
14日	日	みづのえ	六白	熊野那智大社扇祭、八せん始め	十二	大安	とる	虚	天おん	4.36	18.58	4.31	18.28

月の初めにはまだ梅雨期が残っていることもあるが、本格的な夏型の天候、気候になろう。ただし最近是不順なことが多く、冷害や集中豪雨に見舞われることもある。

【冠】七日は「七夕」(たなばた)五節句の一つ「棚機」の日である。織姫の名にちなんで、昔は女子の裁縫の上達を願ったものであつたが、最近では芸技はもとより、書道、音楽、学習全般などの願い事まで、祈るようになった。色紙や短冊などに願いを書いて飾る。近ごろでは町ぐるみ、都市ぐるみのお祭り行事になつてきているところもある。とくに仙台や平塚の「七夕まつり」は全国的に有名である。

【葬】死者を送つて最初のお盆を特に「新盆」といい、戸外に葉つきの青竹を四隅に立て、上のほうをわら縄で結び、盆花(栴檀の別称)などをかけ、白張りの提灯

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
15日	月	みづのえ	五黄	●海の日、ぼん、塩籠みなど祭、茅ヶ崎寒川神社浜降祭、山形出羽三山花祭	十三	赤口	やぶる	危	十し	4.36	18.57	5.30	18.28
16日	火	きのえ	四緑	ぼん送り火、やぶ入り、賽日、えんま詣り、国土交通デー、不成就日	十四	先勝	あやぶ	室	母倉	4.37	18.57	6.26	18.28
17日	水	きのと	三碧	●望六時三十分、京都八坂神社祇園祭	十五	友引	なる	壁	神よし	4.37	18.57	7.22	18.28
18日	木	ひのえ	二黒	小倉祇園太鼓(21日迄)、広島厳島神社管絃祭	十六	先負	おさん	奎	大みやう	4.38	18.56	8.03	18.28
19日	金	ひのと	一白	土用八時三十分、山口祇園祭(27日迄)、勤労青少年の日、三隣亡、一粒万倍日	十七	佛滅	ひらく	婁	くま日	4.39	18.55	8.57	18.28
20日	土	つちのえ	九紫	京都松尾大社御田祭	十八	大安	とづ	胃	●	4.40	18.55	9.51	18.28
21日	日	つちのと	八白	敦賀気比神宮総参祭、熊谷うちわ祭、中伏、庚申	十九	赤口	たつ	昂	大みやう	4.40	18.54	10.42	18.28
22日	月	かのかえ	七赤	大暑一時五十分、宇和島和霊祭、一粒万倍日	廿	先勝	のぞく	畢	大みやう	4.41	18.54	11.32	18.28
23日	火	かのと	六白	地蔵ぼん、河童忌、不成就日、大田原大田山地蔵尊夏大祭	廿一	友引	みつ	觜	神よし	4.42	18.53	12.23	18.28
24日	水	みづのえ	五黄	●下弦一〇時一八分、大阪天満天神祭、徳島天神祭、八せん終り	廿二	先負	たいら	参	大くわ	4.42	18.52	1.19	18.28
25日	木	みづのと	四緑	甲子	廿三	佛滅	さだん	井	ちう日	4.43	18.52	2.12	18.28
26日	金	きのえ	三碧	神奈川大山阿夫利神社夏季大祭、和歌山粉河祭(28日迄)、土用の丑	廿四	大安	とる	鬼	天おん	4.44	18.51	3.07	18.28
27日	土	きのと	二黒	相馬野馬追大祭(27日〜29日)	廿五	赤口	やぶる	柳	十し	4.45	18.50	4.00	18.28
28日	日	ひのえ	一白	大阪住吉祭(8月1日迄)	廿六	先勝	あやぶ	星	天おん	4.45	18.49	4.57	18.28
29日	月	ひのと	九紫	堺大魚夜市、京都愛宕千日詣り、芦ノ湖水祭、己巳	廿七	友引	なる	張	神よし	4.46	18.49	5.50	18.28
30日	火	つちのえ	八白		廿八	先負	おさん	翼	天おん	4.47	18.48	6.41	18.28
31日	水	つちのと	七赤		廿九	佛滅	ひらく	軫	くま日	4.48	18.47	7.33	18.28

をつるす本格的な行事を行うところもある。お盆は、盂蘭盆の略で昔から家単位の大らかな行事になつてきている。地方により多少祀り方は違つて、精霊棚を作りお位牌を安置し、野菜、果物、ソイメン、団子などを供えるのが普通である。仏壇に簞籠(すくも)を敷いて代用するところもあり、きゅうりやなすで、牛、馬の形を作つて供えるところもある。

十三日の夕刻、迎え火といつて麻幹(おがら)を火に焼いて仏を迎え、十五日に僧侶に読経してもらい、十六日に送り火をたいて冥界(めいがい)に送る。お盆の供え物は川や海に流すのが普通で、小さな舟を作り、それに灯籠を載せて流す風習も各地に残っている。

【祭】中元の習慣は中国に発する。正月十五日を上元、七月十五日を中元、十月十五日を下元、合わせて三元とし、金品をささげて贖罪(しよくらい)をする日といひ伝えられており、これがわが国で形が変わり、縁故者や目上、恩人に贈り物をして、感謝の心を表すものとなつたのである。